



全国理美容開業ランキング レポート ver3

＜調査方法＞

行政からの開業情報をもとに、
Review独自のクレンジングをおこなったデータより算出



Contents

株式会社Reviewは「人」と「IT」のチカラを組み合わせ、全国の店舗データおよび法人データを独自で、収集・整備・提供しているデータプロバイダーです。

日々データを更新、圧倒的な網羅性とリアルタイム性がございます。
そんな弊社ならではの、全国の理美容店に関する調査結果を発表いたします。

理美容開業ランキング 2024年10月～12月

理美容開業全国TOP5	…P4
全国47都道府県 理美容開業数ランキング	…P5
2024年、理美容業界を動かす5つの市場動向	…P6
「個の力」と「特化の深さ」が問われる時代へ	…P7-8

理容所・美容所2024年開業数推移～季節要因を読み解く～

全国/2024年1年間の月別開業数	…P10
開業ラッシュはいつ？理美容業の季節変動	…p11
“閑散月”に潜むリアルな理由	…P12

理容所・美容所別の開業動向分析

都道府県別の理美容サロン開業実態	…P14
都市部の理容所は“絶滅危惧”？	…p15
理容所開業の1割未満に沈む都市部のリアル	…P16
北海道にみる“床屋文化”の持続力	
都市と逆行する理容ニーズ——北海道に残る“まちの床屋”	…p17
北海道が理容所比率20%前後を維持できている特徴	…p18

全国理美容開業レポート ver3 まとめ

“残す”を問う新たな挑戦	…P20-21
--------------	---------

理容所・美容所開業ランキング 2024年10月～12月



理美容開業全国TOP5



変わる出店構造、動くマーケット——

トレンド発信地から全国各地へ。いま、理美容業界では若手スタイリストのフリーランス化やSNSを起点とした集客スタイルが広がり、業態そのものが大きく変わり始めています。

本レポートでは、2024年10月～12月期の全国開業データをもとに、エリア別の動向や注目業態の特徴を整理。業界の構造が大きく揺れ動く中で、次に来るビジネスチャンスを探ります。

2024年10月～12月の全国理美容店開業数ランキングを発表いたします。
トップ5には、以下の都道府県がランクインしています。



1位 東京都(207件)

人口・トレンドの中心地で、感度の高い顧客層が多く、SNS集客や特化型業態が成立しやすい。



2位 愛知県(118件)

地場産業が強く、安定した顧客基盤と店舗運営のやすさが特徴。定着率の高いサロンニーズがある。



3位 大阪府(103件)

人口密度と商業集積が高く、“繁華街立地”と“住宅街立地”の両面で需要があるエリア。独立を目指すスタイリストの土壌も厚い。



4位 神奈川県(71件)

都心近接の立地を活かし、都市型サロンと住宅密着型サロンが混在しやすい立地で、多様な出店モデルが成立。



5位 埼玉県(68件)

住宅地を中心に、地域に根差したリピーター獲得型サロンが好調。郊外型フリーランスの開業も増加傾向。

全国47都道府県 理美容開業数ランキング

2024年10月～12月の全国の理美容開業数ランキングは以下のような結果となりました。

2024年10月～12月 全国開業件数 1,451件

2024年10月～12月			
都道府県	開業数		
全国ALL	1,451	24 沖縄県	19
1 東京都	207	25 岐阜県	18
2 愛知県	118	26 群馬県	18
3 大阪府	103	27 奈良県	18
4 神奈川県	71	28 香川県	16
5 埼玉県	68	29 宮崎県	15
6 兵庫県	65	30 岩手県	15
7 福岡県	64	31 山口県	15
8 北海道	58	32 熊本県	14
9 静岡県	47	33 滋賀県	14
10 千葉県	46	34 大分県	14
11 京都府	33	35 山形県	13
12 茨城県	32	36 長崎県	12
13 広島県	31	37 青森県	12
14 長野県	27	38 高知県	10
15 鹿児島県	24	39 徳島県	9
16 岡山県	23	40 福井県	8
17 三重県	23	41 秋田県	8
18 栃木県	22	42 山梨県	8
19 新潟県	21	43 和歌山県	7
20 福島県	21	44 佐賀県	7
21 愛媛県	21	45 鳥取県	7
22 宮城県	20	46 島根県	6
23 石川県	19	47 富山県	4

都道府県別開業数では、1位東京都(207件)、2位愛知県(118件)、3位大阪府(103件)が、引き続き上位を占めましたが、埼玉県(68件)が5位にランクインしていました。
これは、住宅地を中心とした安定した需要や、都心へのアクセスの良さに加え、独立開業のしやすさが開業を後押しし、地方圏に近いベッドタウンでの出店が活発化していることがうかがえます。

2024年、理美容業界を動かす5つの市場動向



2024年10月～12月の全国の理美容開業数は1,451件。前期(2024年7月～9月)の全国の理美容開業数は1,518件だったことから、今回も67件の減少していることが分かりました。

理美容業界は、数年前と比べサービスのかたちも働き方も大きく変わっています。理美容業界の現在地を深掘りしてみましょう。

理美容業界の現在地——5つの市場トレンドから考察する

1. フリーランス・業務委託型の増加

美容師・理容師の独立志向が高まり、サロンに所属せずにシェアサロンや面貸しで働くフリーランスが急増。自分のブランディングや自由な働き方を重視する動きが活発になっています。

2. SNS発信 × 個人ブランディング

Instagram・TikTokを活用した集客・発信が一般化。技術力だけでなく、世界観・ライフスタイルを見せることで顧客を獲得しやすくなっており、サロンではなく「人」に集まる時代へと変化しています。

3. 特化型サロンの拡大

「メンズ専門」「髪質改善特化」「韓国風ヘア特化」など、ターゲットを絞ったコンセプトサロンが増加。単価向上・ファン化・SNS拡散に強く、差別化戦略として注目されています。

4. エリア分散・地方開業の増加

テレワークの定着やU・Iターン志向を背景に、地方都市や郊外エリアでも小規模開業が活発化。地代の安さと地域密着の安定需要が追い風になっています。

5. インバウンド・訪日外国人対応の強化

都市部や観光地では英語対応・予約アプリ連携・キャッシュレスなど、インバウンド顧客への対応力を高めたサロンも増加。観光と美容体験を組み合わせた新たな需要も注目されています。

2024年、理美容業界を動かす5つの市場動向

「個の力」と「特化の深さ」が問われる時代へ

—— フリーランスの美容師はどこで・どうやって働いているのか

■ シェアサロン

シェアサロンとは、複数の美容師が「ブース単位」で空間や設備を共有しながら、それぞれ独立した形で働くスタイルのサロンで、コワーキングスペースの美容師版とも言える場所です。

【ポイント】

- ・利用は時間制や日数制で、必要な分だけ使える
- ・シャンプー台やPOSシステムなど、最低限の設備が揃っている
- ・店舗側に雇用されず、自分で料金設定・予約管理・集客を行う

■ 面貸し(ミラーレンタル)

面貸しとは、既存の美容室の一部(1席～)をオーナーから時間単位または固定でレンタルして、自分の顧客を施術する働き方です。

【ポイント】

- ・場所だけ借りて、働き方は完全に自由
- ・自分の顧客を自分で集客・予約管理・施術
- ・売上の一部をサロンに支払う(歩合制 or 定額制)



シェアサロンと面貸しの違い

シェアサロン

場所の使い方

複数の美容師が共有するレンタルスペース

契約形態

運営会社との利用契約(アプリ/Web予約型も多い)

料金形態

時間貸し・日貸し(30分単位～)が主流

向いてる人

副業・子育て/掛け持ち・これから顧客を増やしたい人

面貸し

既存店舗の一部(1席)を間借り

オーナーとの個別契約(場所貸し)

固定(月額 or 日額)／歩合制(売上の○%)

独立志向・顧客をすでに持っている人

2024年、理美容業界を動かす5つの市場動向

■ 出張・訪問美容

高齢者施設・病院・ブライダルなど、“来られない人”に提供する美容のことです。

日本は超高齢社会に突入しており、要介護者は約**717万人超**(2024年時点)。「美容＝贅沢」ではなく「尊厳の保持」としての重要性が福祉業界でも注目されています。

【ポイント】

- ・地方自治体によっては、訪問美容を支援する補助金制度を設けている
- ・ブライダル領域で、式場での出張ヘアメイクや高齢の親族への訪問美容などのニーズが向上

■ 自宅サロン／レンタルスペースサロン

住宅兼店舗やアパートの一室を活用して自分の空間を持つ働き方です。

コロナ禍以降、「密を避けた」「短時間で終わりたい」「予約制で人と被らない」などのニーズが増加し、小規模でプライベート感のあるサロンの人気が高まりました。

「子育てや介護と両立したい」「週3だけ働きたい」といった、働き方の多様化を実現しやすいモデル。

【ポイント】

- ・子育て世代の主婦美容師や、Uターン・Iターン移住者に選ばれやすい形態
- ・住宅街に根差した「隠れ家サロン」や「口コミ型の固定客重視サロン」が多い



「美容×福祉」、介護現場で広がる新たな役割

現在、「介護美容師」や「医療美容師」といった専門性の認定制度が注目され始めており、資格化・制度化が進めばより職域が広がる可能性があると言われています。また、介護業界との連携モデルや、「介護×美容」の新ビジネスにも注目されており、「家族に代わり、高齢者宅に定期訪問し、身だしなみケアと健康確認を同時に行う」という複合型サービスにも期待されています。

今後、少子高齢化が進む中で、美容師が単なる施術者ではなく、“ケアする人”として社会的役割を拡張していく未来が見えてきています。

こうした「ケア視点をもった美容人材」は、サロンワーク以外のキャリアパスとしても、ますます重要性を増していくでしょう。

理容所・美容所2024年開業数推移 ～季節要因を読み解く～



全国/2024年1年間の月別開業数

2024年の理美容業の開業数を比較してみました。
この1年間で、理美容業界にはどのような変化が起きているのでしょうか。

2024年1年間の開業数推移													
都道府県	1年間合計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
全国ALL	6,588	513	617	742	696	605	446	513	425	580	663	417	371
1 東京都	879	71	87	82	87	71	46	81	66	81	81	70	56
2 大阪府	614	50	44	79	80	60	56	61	26	55	48	31	24
3 愛知県	449	33	46	53	45	41	28	28	25	32	65	25	28
4 神奈川県	359	25	30	45	57	23	24	28	28	28	38	15	18
5 福岡県	298	26	38	30	26	41	21	20	7	25	43	14	7
6 兵庫県	289	25	27	33	16	29	26	21	26	21	25	21	19
7 埼玉県	287	21	26	29	30	24	20	25	16	28	26	24	18
8 北海道	265	19	19	25	23	30	20	19	21	31	26	19	13
9 千葉県	218	16	28	20	29	25	11	15	10	18	19	13	14
10 静岡県	192	15	18	21	17	18	13	11	10	22	31	9	7
11 広島県	138	3	13	22	17	15	13	7	7	10	14	10	7
12 長野県	134	15	16	14	11	12	9	10	12	8	15	3	9
13 京都府	131	14	11	9	16	12	6	7	11	12	18	8	7
14 茨城県	113	10	13	18	7	5	3	10	7	8	14	4	14
15 沖縄県	113	8	9	14	6	13	8	11	7	18	12	2	5
16 新潟県	111	8	9	11	11	21	6	8	10	6	9	7	5
17 岡山県	109	10	19	9	10	8	6	6	8	10	10	11	2
18 栃木県	109	10	10	11	9	12	7	17	8	3	7	8	7
19 岐阜県	105	7	12	6	14	7	6	13	9	13	11	4	3
20 宮城県	104	7	10	16	10	4	6	11	8	12	5	7	8
21 鹿児島県	99	9	5	13	7	8	5	5	12	11	10	11	3
22 群馬県	99	9	14	12	11	13	7	6	3	6	7	5	6
23 三重県	85	5	9	13	8	8	6	4	4	5	15	4	4
24 大分県	74	8	4	9	13	6	4	7	2	7	9	4	1
25 愛媛県	74	7	6	8	11	8	3	4	2	4	10	8	3
26 滋賀県	73	11	7	12	4	6	5	7	4	3	4	6	4
27 福井県	71	3	3	7	10	5	10	5	5	2	6	9	6
28 宮崎県	68	4	7	5	9	4	6	2	7	9	9	2	4
29 奈良県	68	9	8	4	7	5	4	1	6	6	5	6	7
30 山口県	67	5	10	9	4	6	6	5	3	4	6	6	3
31 石川県	65	2	3	4	5	5	4	7	6	10	8	3	8
32 富山県	63	1	3	14	5	10	5	7	9	5	3	1	0
33 青森県	61	4	4	10	3	2	11	3	5	7	3	5	4
34 香川県	57	3	7	2	7	4	3	3	6	6	10	2	4
35 熊本県	54	4	4	8	7	4	3	4	0	6	2	5	7
36 山形県	50	4	2	3	9	5	4	3	4	3	5	6	2
37 長崎県	50	1	3	5	6	5	4	1	5	8	10	0	2
38 和歌山県	47	4	6	5	9	4	2	1	4	5	4	0	3
39 佐賀県	45	0	6	9	3	5	6	2	2	5	1	0	6
40 福井県	44	7	0	7	8	3	1	4	0	6	2	3	3
41 高知県	43	5	8	4	6	2	2	4	0	2	5	4	1
42 岩手県	41	4	1	6	4	3	0	4	2	2	2	4	9
43 鳥取県	39	0	6	6	6	4	0	2	3	5	1	3	3
44 徳島県	38	2	3	6	5	2	1	2	2	6	1	6	2
45 鳥根県	34	0	1	3	5	3	4	4	4	4	0	5	1
46 山梨県	32	5	0	6	2	2	4	4	1	0	5	0	3
47 秋田県	30	4	2	5	1	2	1	3	2	2	3	4	1

※1年間の開業数の合計が多い順に表記しております。

開業ラッシュはいつ？理美容業の季節変動

全国の理美容開業数の推移

2024年、1年間の理美容開業数の推移を比較すると、以下のような変化が見られました。



夏場と冬場の開業数が下がってる？

1年間のデータを見てみると、開業数が少ない月トップ3が1位12月(371件)、2位11月(417件)、3位8月(425件)ということが分かりました。

なぜ、夏場と冬場の開業数が極端に減少しているのでしょうか。

その背景には、社会の現実的な理由が関係していることが判明しました。



「夏・冬開業」の逆転戦略、裏を返せば「競合が少ない」チャンス



季節に左右されすぎず、自分のペースと戦略で動けるなら、夏や冬の開業はむしろ差別化の好機にもなり得ます。
“あえてこの時期に”動くことで、目立つ・定着する・先行者になる。そんな現代型の開業スタイルも十分に現実的です。
オンライン予約やSNS集客をうまく活用すれば、「春・秋にこだわらない開業戦略」も成立することが可能になります。

“閑散月”に潜むリアルな理由

夏場と冬場の開業数が減少する原因



1. 引っ越しや物件取得がしづらい

夏は、春の不動産業界(3月～4月)の繁忙期を過ぎ、空き物件が少なく希望のサロン物件が見つかりにくい時期になります。

冬は、年末年始の休業や雪の影響で、物件探しや契約・内見の動きが鈍くなりやすい傾向にあります。

2. 内装工事・備品調達の難易度が上がる

夏は、内装業者や設備会社がお盆前後に長期休暇に入ることが多く、また暑さの影響で、内装工事や資材の手配が遅れやすく、スケジュールが不安定になりがちです。

冬は、年末年始で業者の稼働が止まりやすく、設備の納期遅延など準備がスムーズに進みにくい傾向があります。

3. 集客・告知が機能しにくいタイミング

夏は、お盆や夏休みの旅行で人の動きが不規則になり、地域密着型の新規サロンのPRが届きにくい時期になります。

冬は、既存サロンが繁忙期で埋もれやすく、年明けは寒さや行事の影響で集客が難しくなりがちです。

4. 季節商戦に合わせにくい

夏は、既存サロンも「梅雨明け～盆前」はフル稼働しており、新規参入のタイミングとしては埋もれやすく入り込みづらい時期になります。

冬は年末商戦に乗り遅れやすく、年始は集客が鈍るため、タイミングを見誤ると波に乗りづらくなります。年始からの開業だと、「1月は閑散期」「2月は逃げ月」と言われるように出足が鈍くなりがちです。

5. 資金の流動性と心理的ハードル

夏は、レジャー・帰省・冷房費などの出費がかさむ時期で資金準備が難しく、開業を秋に延期する人が多くなります。

冬は、ボーナス支出・お年玉・帰省・税金支払いなどで資金繰りが厳しいうえ、「年始の失敗を避けたい」という心理から春まで様子を見る傾向があります。

上記の内容から、「なぜその時期を選ぶのか？」を明確にし、それに合わせた準備と戦略を立てることが、重要になってきます。

理容所・美容所別の開業動向分析

都道府県別の理美容サロン開業実態

2024年、1年間の理容所・美容所別の開業数推移を3ヶ月毎に比較してみました。
理容所・美容所それぞれの業界でどのような変化が起きているのでしょうか。

美容所						理容所					
都道府県	合計	1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月	都道府県	合計	1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月
全国ALL	5,999	1,701	1,592	1,387	1,319	全国ALL	589	171	155	131	132
1 東京都	806	220	186	208	192	1 東京都	73	20	18	20	15
2 大阪府	563	159	184	131	89	2 大阪府	51	14	12	11	14
3 愛知県	427	128	108	80	111	3 北海道	38	11	11	12	4
4 神奈川県	336	95	93	80	68	4 埼玉県	35	10	9	10	6
5 福岡県	281	89	85	46	61	5 兵庫県	26	8	7	6	5
6 兵庫県	263	77	64	62	60	6 神奈川県	23	5	11	4	3
7 埼玉県	252	66	65	59	62	7 愛知県	22	4	6	5	7
8 北海道	227	52	62	59	54	8 茨城県	21	6	2	0	13
9 千葉県	200	56	61	42	41	9 静岡県	19	4	7	2	6
10 静岡県	173	50	41	41	41	10 千葉県	18	8	4	1	5
11 長野県	126	42	30	30	24	11 沖縄県	18	5	7	5	1
12 広島県	123	36	39	20	28	12 福岡県	17	5	3	6	3
13 京都府	121	34	30	27	30	13 宮城県	16	6	3	3	4
14 新潟県	103	23	36	24	20	14 広島県	15	2	6	4	3
15 岐阜県	102	24	26	34	18	15 鹿児島県	13	6	2	3	2
16 岡山県	102	35	21	24	22	16 群馬県	11	6	3	2	0
17 栃木県	101	30	26	26	19	17 青森県	11	0	1	5	5
18 沖縄県	95	26	20	31	18	18 京都府	10	0	4	3	3
19 茨城県	92	35	13	25	19	19 福島県	10	2	3	2	3
20 群馬県	88	29	28	13	18	20 長野県	8	3	2	0	3
21 宮城県	88	27	17	28	16	21 新潟県	8	5	2	0	1
22 鹿児島県	86	21	18	25	22	22 栃木県	8	1	2	2	3
23 三重県	78	22	21	12	23	23 愛媛県	8	2	1	2	3
24 大分県	69	21	22	13	13	24 山形県	8	2	2	1	3
25 滋賀県	66	28	13	13	12	25 和歌山県	8	4	1	2	1
26 愛媛県	66	19	21	8	18	26 岩手県	8	3	0	0	5
27 富山県	65	16	16	18	15	27 岡山県	7	3	3	0	1
28 奈良県	64	18	16	12	18	28 三重県	7	5	1	1	0
29 石川県	62	9	13	23	17	29 滋賀県	7	2	2	1	2
30 福島県	61	11	22	10	18	30 山口県	7	4	1	2	0
31 山口県	60	20	15	10	15	31 大分県	5	0	1	3	1
32 富山県	58	17	19	18	4	32 富山県	5	1	1	3	0
33 香川県	54	12	13	13	16	33 熊本県	5	1	2	0	2
34 青森県	50	18	15	10	7	34 長崎県	5	2	3	0	0
35 熊本県	49	15	12	10	12	35 秋田県	5	3	1	0	1
36 長崎県	45	7	12	14	12	36 奈良県	4	3	0	1	0
37 福井県	43	14	11	10	8	37 佐賀県	4	2	2	0	0
38 山形県	42	7	16	9	10	38 徳島県	4	1	0	3	0
39 高知県	42	17	10	6	9	39 岐阜県	3	1	1	1	0
40 佐賀県	41	13	12	9	7	40 宮城県	3	0	3	0	0
41 和歌山県	39	11	14	8	6	41 石川県	3	0	1	0	2
42 鳥取県	38	12	10	10	6	42 香川県	3	0	1	2	0
43 徳島県	34	10	8	7	9	43 島根県	3	1	1	1	0
44 岩手県	33	8	7	8	10	44 山梨県	3	0	1	2	0
45 島根県	31	3	11	11	6	45 福井県	1	0	1	0	0
46 山梨県	29	11	7	3	8	46 高知県	1	0	0	0	1
47 秋田県	25	8	3	7	7	47 鳥取県	1	0	0	0	1

※1年間の開業数の合計が多い順に表記しております。

都道府県別の理美容サロン開業実態

都市部の理容所は“絶滅危惧”？

美容所9:理容所1の時代

2024年、1年間の理容所・美容所別の開業数推移を3ヶ月毎に比較すると、都市部の理容所の割合が10%を切る比率が高いことが判明しました。

3ヶ月毎の理容所の割合						
	都道府県	1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月	平均
1	東京都	9.1%	9.7%	9.6%	7.8%	9.0%
2	大阪府	8.8%	6.5%	8.4%	15.7%	9.9%
3	愛知県	3.1%	5.6%	6.3%	6.3%	5.3%
4	神奈川県	5.3%	11.8%	5.0%	4.4%	6.6%
5	福岡県	5.6%	3.5%	13.0%	4.9%	6.8%

都市部では、美容所が開業件数全体の90%以上を占める圧倒的多数派となっており、理容所の存在感は年々薄れつつあります。理容所は新規開業よりも廃業が目立ち、業界全体として縮小傾向にあります。立地コストや集客競争の厳しさもあり、理容所は事業として成立しにくくなっているのが現状と考えられます。



「理容+α」が重要に？



昨今、伝統的な理容所の枠を超えて、異業種や異なる価値観と掛け合わせることで差別化・再活性化を図るビジネスモデルが注目されてきています。

【例】 バーバー × カフェ／バー
 理容 × メンズエステ・フェイシャル
 理容 × 出張・訪問・在宅サービス

男性の美容意識やライフスタイルが多様化する今、「理容の再発明」は成長チャンスの鍵になると言えるでしょう。

理容所開業の1割未満に沈む都市部のリアル

都市部の理容所が低迷状態の4つの原因

■ 美容志向の変化と“ヘアサロン化”

都市部では、ヘアスタイルの自由度・トレンド性・空間のデザイン性などで、男性も美容院を選ぶのが当たり前になってきています。床屋＝年配男性向けというイメージが根強く、若年層が入りにくい雰囲気も課題であると考えられます。

■ 理容師資格の取得者・若手人口の減少

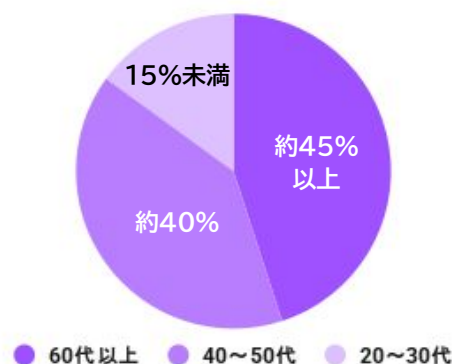
美容師国家試験の受験者数が横ばい～微増傾向にある一方で、理容師の受験者数は年々減少し、約20年で3分の1になっています。地域によっては後継者不足が深刻な課題となりつつあります。

国家試験合格者推移



出典:理容師美容師試験研修センターHP

年齢層別の理容師人数



出典:厚生労働省医業・生活衛生局

■ 美容所よりも開業ハードルが高い

理容所は、刃物を扱う施術があるため、衛生管理基準が美容所よりも厳しく設定されています。特に、消毒設備や刃物の保管・管理に関する要件が細かく、制度上のハードルが高いのが特徴です。

■ 都市型ライフスタイルとのミスマッチ

理容所の強みである「予約不要」「短時間で仕上がる」といった利便性は、本来であれば忙しい現代人にフィットする特徴ですが、都市部ではそのニーズを大手クイックカットチェーンがすでに押さえています。低価格・短時間での施術を武器にスピード重視の顧客を取り込んでおり、個人経営の理容所が同じ土俵で勝負するのは厳しいのが現状です。

北海道にみる“床屋文化”の持続力

都市と逆行する理容ニーズ——北海道に残る“まちの床屋”

一方、都市部とは異なり、北海道では今も“まちの床屋”が地域に根づいていました。。



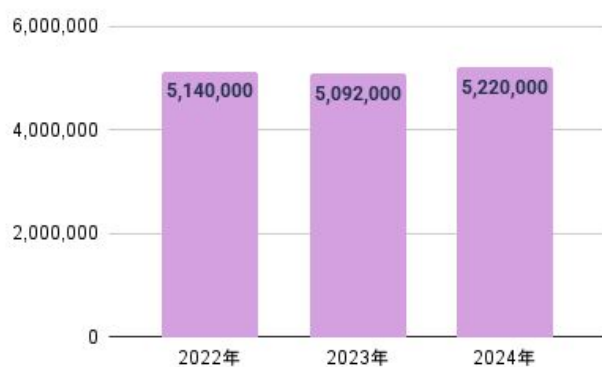
10月～12月は、季節要因のせいか惜しくも10%を切る結果となりましたが、都市部とは異なり、理容所の割合が基本20%前後をキープしていることが分かりました。

その背景には、都市部とは異なる土壌があると考えられます。

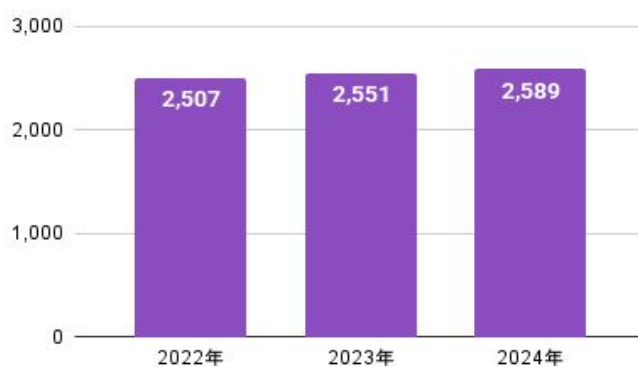
数字で読み解く理容所の存在感

人口と比較してみると、北海道の理容所数は全国平均を上回っており、高齢化や地域密着型の暮らしを背景に、理容ニーズが一定の水準で保たれていました。

北海道の人口推移



北海道の理容所推移



出典：北海道HP

北海道では、2022年から2023年にかけて約5万人の人口減が見られましたが、2024年には回復傾向にあります。この背景には、外国人住民の増加や一部地域での移住促進などが影響していると考えられます。一方で、理容所数は毎年増加しており、2年半で約80件の純増。人口1万人あたりの理容所数は全国平均(約0.9～1.2件)を大きく上回り、約4.9件の水準を記録しました。

以上のことから地域密着型のニーズに支えられて理容所の需要が根強く、“理容所の存在感”が維持・拡大している状況が見られました。

北海道にみる“床屋文化”の持続力

北海道が理容所比率20%前後を維持できている特徴

■ 地域分散型の居住環境 →「地域密着理容」が根強い

北海道は地理的に広く、都市と都市の間に距離があり、住民の生活圏も分散しています。そのため、「買い物のついでに美容室へ」という都市型のスタイルではなく、「近所の理容所に徒歩・自転車で通う」といった生活インフラ型の理容所が定着しています。

■ 高齢人口比率が高く、理容所ニーズが安定

北海道の高齢化率は30%超(全国平均よりやや高め)で、特に地方では60代以上が住民の多数を占める自治体も存在します。この層は若年層よりも「長年通っている理容所」や「顔なじみの理容師」に安心感を抱きやすく、価格より信頼・習慣を重視する傾向にあります。

■ 理容師の独立・事業継続率が高い地域構造

北海道では「自宅の1階で理容所を開業」や「夫婦・親子経営」といった形が多く、物件取得費や家賃、スタッフ人件費といった固定コストが非常に低く抑えられるのが特徴です。

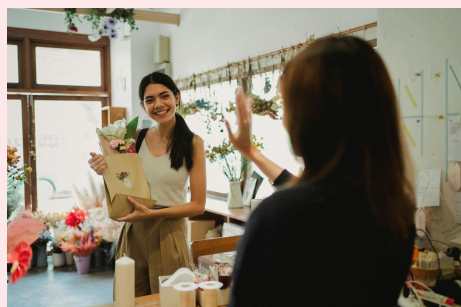
そのため、都会のように高い集客目標を立てずとも採算が合いやすく、少人数・低コスト・地元密着型の持続可能な運営が可能になります。

■ 都市部ほど美容所が過密でないため共存しやすい

北海道の中小都市・郊外では、都市部と比べ美容室の新規参入が飽和しておらず、既存の理容所と競合が起こりにくいです。さらに、美容所が強みとする「トレンド性」や「インスタ映え」といった付加価値よりも、「安心感」「慣れ」「近さ」が重視される地域では、理容所と美容所が棲み分けしながら共存できる環境が整っています。



「衰退産業」ではなく、“地域の価値”そのものに



少子高齢化や人口減少が進む中で、理容所は「減っていく業種」と見なされがちです。

しかし実際には、高齢者ニーズや地域密着型サービスとしての役割が根強く、生活に寄り添う“インフラ型サロン”としての存在感を維持しています。

「ただの散髪屋」ではなく、「地域と人をつなぐ価値ある場」として、今後も進化していくと考えられます。

A collection of hair styling tools is arranged on a light pink background. In the upper left, a pair of grey-handled scissors is partially visible with a pink hair clip attached to its handle. Below the scissors, a large, round, black hairbrush with a white handle and a perforated metal head is positioned diagonally. In the lower right, a black comb is laid out horizontally. Several hair clips are scattered around: a pink one near the scissors, a white one near the comb, a gold one at the bottom left, and a teal one at the bottom right. The text "全国理美容開業レポート ver3 まとめ" is centered over the image in a white, sans-serif font.

全国理美容開業レポート ver3 まとめ

全国理美容開業レポート ver3 まとめ

“残す”を問う新たな挑戦

「理美容店舗の開業数がゼロになる地域が出てくるの？」

データだけを見ると、理美容所の開業が「ゼロ」に近づく地域は今後確実に増えていくと考えられます。実際、開業件数が年々減少している自治体は全国的に広がっており、特に人口の少ない地域や高齢化が進むエリアでは、その傾向が顕著です。

ですが、そうした中でも「かたちを変えて続く理美容所」や「地域の暮らしに根ざしたサロン」も確かに存在しています。

「どうしてこの地域が増えてるの？」

理美容所の開業が減少する地域が増える一方で、一部の地域では「むしろ開業が増えている」という動きもデータから読み取ることができました。

- ・地元密着の暮らしに根ざしたニーズの安定
- ・美容所が飽和していない適度な競争環境
- ・自宅や空き店舗を活用した低コストな開業モデル

など、都市部にはない「地域ならではの開業メリット」が存在していました。人口減少や高齢化という社会課題を抱えながらも、その土地に合ったスタイルで“続けやすい理美容”が根づいている街もあるのです。

「これからの理美容は、どこで・どう生き残るのか？」

理美容業界は、都市部での過密競争と、地方での人口減という“二極化”の時代に入っています。そんな中で、これから理美容所が生き残っていくには、場所選びだけでなく、運営の「かたち」そのものが問われる時代になっています。

オンライン予約やSNSでの情報発信、キャッシュレス対応など、リアルとデジタルを掛け合わせた“現代的な経営スタイル”が、立地や規模にかかわらず、継続を左右するカギになると考えられます。

都市部・中小都市・地方、それぞれのニーズに合わせた戦略で、“選ばれ続ける理美容”はまだまだ生まれていきます。

全国理美容開業レポート ver3 まとめ

“無くなる”のではなく、“進化する”——。

近年、理美容業界では従来の店舗型営業だけでなく、多様で柔軟な働き方が広がっています。

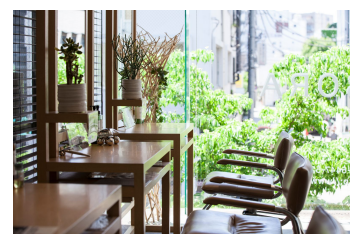
- ・フリーランス
- ・出張・訪問型サービス
- ・週に数回だけ営業するスタイル
- ・自宅を兼ねたサロン運営

これにより、従来の「店舗がなくなる」という危機感だけでなく、「どう変化し、どのように新たな形で価値を提供していくか」という視点が重要になってきました。

利用者のライフスタイルやニーズの多様化に応じて、理美容サービスもその形態を進化させることで、地域密着型や個人特化型など、新たなビジネスモデルが生まれつつあります。

すべてが消えていくわけではありません。

地域に合った“**かたちを変えた理美容**”が生まれる余地はまだ多く残されています。
自分らしいスタイルと、その土地に合った形で理美容の可能性はまだまだ広がっていくはずです。



このレポートが、理美容所の利用者一人ひとりに寄り添う新しい価値提供が実現し、業界全体がより豊かで持続可能なものへと成長していく一助となれば幸いです。

新しいかたちで寄り添い続ける未来へ——

理美容業界の更なる発展と未来への確かな一歩となることを願って、このレポートをお届けします。

【データ・レポートに関するお問い合わせ】

株式会社Review(リビュー) 広報
担当: 安川
E-mail: yasukawa@re-view.co.jp
TEL: 06-7730-9109

Re:review